

熊本商業高等学校 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校目標

県教育委員会関係課から出されている「令和5年度教育指導の重点及び取り組みの方向」を基本に、本校の校訓「礼節」・「剛健」及び「反省十訓」を踏まえ、徳・知・体の調和の取れた全人教育をめざすとともに、これまでの本校教育の伝統を継承し、教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと活力ある学校づくりをめざす。

2 本年度の目標

○豊かな人間性と健全な心身の育成
校訓である「礼節」・「剛健」を重んじ、他者を思いやる豊かな人権感覚を身に付けるとともに、校内外における集団生活のルールやマナーを体得した規範意識の高い生徒の育成に努める。

○学力の向上と進路指導の充実
確固とした進路目標を持ち、その実現のために自ら進んで学び学習する態度を育成し、学力向上に努めるとともに、個々に対応した進路指導の充実を図り、望ましい職業観や勤労観の育成に努める。

○地域社会の期待に応える特色ある学校づくり
特別活動を奨励し、部活動等に積極的に取り組む姿勢を育成し、学校の活性化に努めるとともに、学校周辺の環境清掃活動やボランティア活動に積極的に参加する姿勢の育成に努める。

○生徒を「伸ばす」教育活動の実践
熊本県の教職員像「認め、ほめ、励まし、伸ばす」にある「伸ばす」に力点を置き、教職員のスキルアップ、充実した学校組織の体制づくりを行い、教育活動の実践に努める。

【教育スローガン】
「令和の時代も選ばれ続けるオンリーワンの商業高校へ ～志高く、怒と信頼の人づくり～」

3 自己総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の教育目標 日々の教育活動 (教育スローガン) の達成に努める。	運営委員会(衛生委員会)、各種行事において学校の諸活動の状況を確認する。	教科指導を中心に、生徒指導、進路指導等、学校の諸活動の工夫・改善を図り、教育目標を達成する。	各分掌が掲げる具体的目標の達成に向けた取り組み状況を確認し、必要に応じて指導助言を行う。	A	本校の教育目標の一つである、生徒を伸ばす教育活動の実践を、各分掌で推進している。 生徒の学習面や生活指導面の現状分析(アンケート調査)をすることで課題を明確にし、取組の方向性を職員間で共通理解を図っている。
		「志」を高く持ち、他を思いやる「怒」の心と人と人をつなぐ「信頼」の心を持つ人材を育成する。	特別活動、部活動を含めた教育活動の全ての領域で「日本一の商業高校」の実現を図る。	規範意識の醸成と心の教育の推進を図るため、挨拶運動を徹底し、怒の精神を涵養する。	A	生徒の自己肯定感を高めることや怒の心の育成を図るため、挨拶の徹底、心の教育等、職員一丸となった教育活動が推進できている。特に生徒の校門一礼や挨拶の励行は、来校者から高い評価を受けている。学年集会やオンライン配信による全体指導、また、部活動指導等を通じて心の教育の推進を継続している。
	熊本県の商業高校の拠点校としての指導的役割を果たす。	全領域で学校活性化に向けた取組や組織の検証を行い、改善を図る。	キャリア教育の充実と商業高校としての専門性の深化を図る。学科のあり方や本年度より学年進行で始まった新教育課程の検証に取り組む。	将来のスペシャリストの育成を図り、進路目標(就職・進学)達成に向けた指導の改善・充実に積極的に取り組む。	A	商業高校の拠点校としてWebの活用法について、各学校に情報を発信、教材の提供など拠点校としての役割を果たしている。また、高度資格取得指導を通じてスペシャリストの育成ができています。また、商業教育研究会事務局としてリーダーシップを執っている。
業務改善、働き方改革の視点から校務分掌、学校行事等を見直す。	・職員に業務の効率化を意識させる。 ・職員に勤務時間・健康管理を意識した働き方を意識させる。	・行事の2週間前までには運営委員会(学年連絡会)に提案できるように促し、各分掌の業務の効率化を図る。 ・部活動指導による時間外勤務の削減。	・各分掌間の連携 ・ファイル名のコード化 ・行事の精選 ・部活動指導の交代制を促進 ・部活動方針の周知と遵守	B	会議の回数削減や時間短縮、積極的なICTの活用に取り組む業務の効率化を図ることができた。特に行事におけるオンライン配信やフォームズ等を活用したアンケートは有効であった。毎月の衛生委員会を通じて超過勤務の先生方をリストアップし、保健指導につなげるなど勤務時間の削減をできるように工夫した。部活動の練習試合、遠征、公式戦等の勤務時間超過の改善が課題である。	

	学校・保護者・地域社会等の連携とその充実を図る。	創立128年目を迎え、教育目標達成のための思いを新たに、学校の教育活動全般について更に情報発信するとともに、保護者・地域社会の理解と協力を得て、学校の活性化に繋げる。	様々な情報手段を活用して、学校の活動を積極的に発信していくとともに、学校教育及び商業教育の活性化の方策を探る。	HPの更新、報道機関への資料提供、学校安心安全メール等での情報提供を促進する。また、育友会とのより良い協力態勢づくりに努める。	A	学校行事や生徒の活躍等の情報を学校HP・学校安心メール・すぐー等を通じて発信した。熊商デパートや商品開発を通じた地域連携、各教科における高大・高専・高幼連携をするなど、商業教育の高度化と教育の活性化を図った。学校行事については、育友会・地域の方々にご支援をいただき、本校教育についてご理解いただく良い機会となっている。
学力向上	学力の充実を図る。	各人の学習目標を明確にさせ、予習復習の徹底を図り、家庭学習時間の確保を促す。	学習意欲を高め、学習の習慣化を図り、達成感を持つことができるよう促す。	定期的な生活時間活用調査を実施し、時間の大切さを自覚させると同時に有効かつ効果的な学習方法を身に付けさせる。	B	定期的な生活時間活用調査を実施することはできなかったが、各教科ではタブレットによる課題の提出を行った結果、提出率の向上とともに、家庭学習の確保につながった。
		「黙学」の有効活用を図る。	8時35分までに入室・着席し、1日のスタートにふさわしい、ゆとりある学校生活を送れるように心身を落ち着かせる。	適切な課題(国数英の基礎学力強化、検定対策等)を課すとともに、着席指導を行うことで、主体的に学習する意欲を高める。	A	生徒は主体的に課題に取り組み、教員は生徒の登校状況を把握するという、落ち着いた態度で1日を迎えるのに効果的だった。ただし、依然としてタブレット端末を使うにはWi-Fi環境等の課題がある。
	授業内容の充実を図る。	言語活動の充実を進めながら、生徒の学習意欲を高める授業を実施する。	公開授業を軸に教科内・外の研修を深める。特に、教科会を充実させ、担当者間の連携・連絡を密にし、思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫・改善に努める。また、ICTを活用した授業を多く取り入れ、生徒が主体的・協働的に取り組む授業を確立する。	分かる授業確立のため、教科の垣根を超えた公開授業及び授業評価を年2回実施し、主体的かつ対話的な深い学び等の教授方法を研究する。ICTを活用した授業実践や観点別学習評価についての職員研修を実施し、職員間の共通理解を図る。	A	年2回の公開授業については、数年振りに保護者や学校関係者へも呼びかけ、実施することができた。授業評価については、Formsによる授業評価を行ったが、ネットワーク環境に左右される部分が大きかったため、実施方法を含め今後検討をしていく。月1回実施の教科主任会については、来年度も継続実施し、職員の共通理解に努める。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の視点に立った基礎的・汎用的能力を育成する。	生徒に進路決定と将来の目標を見出させる指導を行う。	生徒一人一人が社会における自己の役割を認識し、自己の能力や適性、可能性に気付き、生涯の人生を見通した中で進路について考えるよう促す。	進路LHRや集団進路指導において、社会の情勢や人間としての在り方や生き方を踏まえた幅広い情報を提供し、自己の将来像から逆算的に進路について考えるよう啓発に努める。	A	各学年でテーマを設け、「進路LHR」や「集団進路指導」等を実施し、効果的な進路意識の高揚や情報提供を実施できた。進路学習後に、自己を見つめ将来について真剣に考える態度を持続できるよう、進路ノート等のさらなる活用など、日常の支援も今後充実させたい。
		学習をはじめとする諸活動の「意味」を、将来とのつながりの中で理解させる指導を行う。	各教科をはじめ教育活動全体を通して、知識や経験の汎用性を実感できるような指導に努める。	生涯に渡る生活で、今の学びがどのように生きてくるのかを意識した授業展開・活動づくりに努めるとともに、教師一人一人が人間としての在り方生き方を踏まえた学習活動の意味を丁寧に語り、伝える。卒業生を囲む会や合格体験談を聞く会等を通して、学びの継続性や将来の可能性について啓発を図る。	A	社会の課題に自らがどのようにかわり、社会参加や自己実現を果たしていくかを念頭に置いた教育活動を展開できた。合格体験談や進路ガイダンス等は、生徒の学ぶ意欲を刺激し、自己の進路を深く考える良い機会となった。今後も進路行事を精選しながら、よりよい取組を実施していきたい。

	生徒一人一人の進路実現を支援する。	生徒の能力・適性を把握した適切な支援により、進路目標の実現を図る。	生徒一人一人の進路決定までの過程を大切に、就職・進学ともに考えさせる指導を工夫する。 ① 就職内定率100%を達成する。 ② 国立大学合格者20名以上を目標の核とし、大学進学者数を100名以上にする。	・「面談力」を高め、生徒が目標を高く持ち、自己の可能性を切り拓くため、意欲的に進路決定に取り組むように導く。 ・生徒一人一人の進路の悩みに丁寧に对应し、必要な情報提供や支援を行う。 ・各試験対策として進学・就職・公務員の特別講座を実施する。 ・全職員による面接指導・小論文指導を行う。	A	キャリアサポーターとの連携による企業情報の提供、面談、全職員による面接指導等丁寧に指導した結果、就職内定率100%を達成した。また、全職員による小論文研修会の受講及び指導、受験科目に対応した課外やきめ細かな個別指導により、大学進学者も目標値をほぼ達成した。今後、さらに多様化する入試形態への対応が必要である。
生徒指導	外面的生徒指導の充実を図る。	規範意識の高揚を図る。	・時間厳守を徹底する。 ・校則を遵守する。 ・情報モラル教育の充実を図る。 ・配慮を要する生徒の確実な把握。	・黙学と運動させながら、遅刻者数の減少を図る。 ・整容検査を適宜実施し、違反者減に努める。 ・携帯電話のマナーや適切な使用方法について、学期に1回全体指導を行う。	A	熊商生としての自覚の上に順法精神を身に付けることができた。携帯電話の使用については、企画した全体指導に加えて、全職員による時機を見た指導を行っているが、一層のマナー・モラル指導が必要である。
		個に応じた多様な指導支援に努める。	交通安全並びに自転車の盗難防止に努める。	・自転車運転マナーを徹底する。 ・自転車の二重ロックを徹底する。	・係職員及び交通委員による安全点検、校外指導を行う。	B
	内面的生徒指導の充実を図る。	不登校・問題行動を起こす生徒への適切な対応に努める。	・不登校や問題行動の兆候を見逃さず早期把握に努め、学年をはじめ、教育相談部・保健部及びスクール・カウンセラーと連携を図る。 ・職員全体の共通理解のもと適切な指導を行う。 ・「命を大切に心」を育む指導プログラムの取組を通して、命の大切さを常に意識した判断や行動ができる生徒の育成を図る。	・マナー・モラル教育を実施する。 ・全校集会時において、思いやりの心がいかに大切であるかを生徒に訴えかけ、心の教育の充実を図る。 ・担任と生徒との二者面談を行い、生徒個々の内面を聞き出す。 ・生徒会主催の「心のきずなを深める集会」を実施し、「怒」の心を育成する。 ・各教科、ホームルーム活動や全校集会、講演会、黙学等、組織的系統的に各取組を実施する。	B	相手を傷つける不適切な言動を指導する場面が増えた。なにげない言葉に思い悩んだ生徒は少なくなかった。そのような生徒に担任は、教育相談部やスクールカウンセラーと協力して該当生徒の心の健康回復に努めた。さらに、人権教育とも連携して、学級ごとに努力目標を掲げて人権意識の高揚にも努めた。
		校門一礼を促し、さらに愛校心を育てる。	・風紀委員と連携を図り、自然な一礼の雰囲気づくりを行い、100%を目指す。	・毎月10日に調査を行い、全校生徒に発信していく。 ・育友会との連携を図る。	B	校門一礼を実践している生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。生徒の愛校心や、感謝の心を育むために、大切に指導を継続したい。
人権教育の推進	「差別やいじめを許さない、見過ごさない」ための人権感覚の向上を図り、人権を尊重する学校づくりを目指す。	・不合理な差別に気付く、指摘する力をつける。 ・生徒同士、職員間における仲間づくりを推進し、学校における差別事象をなくす。	・生徒会人権委員会の活動をさらに充実させる。 ・人権教育推進委員会の活動をさらに充実させる。	◎生徒人権委員会による取組 ・朝の放送による啓発 ・「人権標語」作成に関する取組 ・文化発表会での人権意識の啓発に係る発表 ◎人権教育推進委員会での取組 ・生徒人権委員会活動の検討 ・職員研修(外部研修)参加の呼びかけ ・職員研修(校内研修)の内容を吟味し、効果的な研修を実施する。	B	「心のきずなを深める」月間で取り組んだ人権標語は、ほぼ全員が作成し、クラスメイトや担任との共有を図ることができた。文化発表会では委員長・副委員長を中心として「性自認・性的指向(LGBTQ+)」についての発表に取り組み、生徒への啓発につなげることができた。職員に向けての研修(性自認・性的指向)も実施したが、十分な準備ができず、中途半端な形で研修となってしまった。
	「言わない・書かない・提出しない」取り組みを通して、すべての生徒の進路保障につなげる。	特に、3年時のLHRや面接指導等を通して生徒への意識付けを図る。	・違反質問や不適切な記述、誓約書等の提出を求められた際に、毅然とした態度で対応できるようになる。 ・将来、自分自身が選考差別する側に回らない意識を持つようにする。	・2回の人権LHRを実施する。(1回目…学年全体に向けた概要説明 2回目…担任を中心とした具体的な説明) ・進路指導部と連携して面接指導時の内容を吟味し、生徒へしっかりと伝える。	A	スライド等を活用し、該当学年の生徒たちにはっきりと伝えることができた。違反質問等の問題事案も発生したが、関係部署への報告をしっかりと行うことができた。

	命を大切にし、心のきずなを深める取り組みを充実させる。	3年間の人権教育を通して、様々な差別とたたかう人の生き方や思い、個々の尊厳などを学ぶ。	・差別を受けた当事者の話を聞くことや様々な教材から、人権課題に関わる人々の生き方の尊さを学ぶ。 ・他者を思いやりと共に、自己の尊厳を大切に、自信を持って生きる心を育む。	・外部講師を招へいし、当事者の思いに触れる。 ・生徒の感想、職員の感想を集約し、共有すると共に、より効果的な方策を検討する。	B	外部講師の招へい授業は実施しなかったが、人権読本「きずな」の教材を使っでの授業を展開することができた。授業が進めやすくなるような教材等を準備し、関係学年との連携を図ることができた。
いじめの防止等	いじめを許さない学校づくりといじめを「しない」「させない」生徒の育成を図る。	いじめの早期発見に努めると共に、お互いを思いやり、自他の生命を大切にすることを育てる。	・いじめの兆候を見逃さず、定期的なアンケートや個別面談等を通して、早期把握に努め、学年、教育相談部、保健部等と連携し組織的な対応を行う。 ・家庭との連携を深める。	・本校で定めた「いじめ防止基本方針(改訂版)」に基づき組織的に対応する。	B	アンケート調査、面談週間を計画的に実施し、全職員で生徒を見守り、いじめを見逃さないように取り組んでいる。いじめ防止対策委員会等において情報共有ができ、職員間でも連携を図りながら迅速な対応ができている。更にスクールカウンセラーや専門家の助言を頂きながら指導していきたい。
		いじめ防止等の年間計画に基づいた取組を実施する。	いじめのない学校づくりに生徒の主体的な参画を促す。	生徒会による「いじめをなくす」ための校内放送等を活用し、生徒たち自身が話し合い、意見を出し合う中で、いじめを無くす集団を育てる。	C	生徒会による校内放送やオンライン動画等を使用して、生徒の主体的な活動ができにくかった。いじめ撲滅の意識を高揚させる取り組みを継続していきたい。
	いじめの防止とともに、深刻な悩みや課題を抱えている生徒の支援を目指す。	気になる生徒の早期発見に努めるとともに、生徒自身がお互いを思いやる「怒」の心を育てる。	学年部と保健部・教育相談部との連携を強化することで、兆候を見逃さず、職員の共通理解のもと適切に対応する。	教育相談部会において、気になる生徒への指導並びに支援体制について、運営委員会(学年連絡会)を通して周知することで、組織的な対応を図る。	B	学年部、保健部、教育相談部及びスクールカウンセラーとの連絡体制が円滑に機能し情報共有ができた。課題を抱えている生徒への対応を継続している。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災教育の推進と地域連携豊かな人間性と健全な心身の育成を図る。	熊本地震を教訓に防災教育の充実に学校総体として取り組む。本校の伝統を継承しながら、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	・想定外の災害に対しても冷静かつ安全に行動する姿勢を身に付ける。 ・「学校運営協議会」において、具体的な取組等の研究を進める。 ・地域の商店街の活性化を題材とした研究を進める。 ・幼稚園実習の内容を充実させる。 ・「避難所協力」において、熊本県、熊本市、地域の自治会との連携する。	・年3回の避難訓練の実施 ・熊商危機管理マニュアルの更新 ・水前寺公園商店街の活性化について地域の連携を深める。 ・神水幼稚園における実習について、連携を深めることにより充実を図る。 ・校内組織編成による避難所運営への協力体制の徹底を図る。	A	数年ぶりに生徒全員がグラウンドに集合する避難訓練を実施できた。想定(15分)を下回る10分弱で点呼完了した点は高く評価できる。生徒たちも落ち着いて行動できていた。熊本市との震災対応訓練は4月16日(日)及び11月12日(日)に市役所・地域の自治会の方と連携して取り組むことができた。 ・幼稚園実習に替わる講演会を実施した。命の大切さや親の役割など学ぶことができた。
商業教育の充実	商業の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	ビジネスの理解力・実践力を評価する方法として、資格取得に向けた指導を強化する。	生徒が主体的に資格取得について目標を立てることができるよう導き、その達成を目指す。	・生徒個々の学力に応じた指導や授業内容の充実、改善、主体的かつ対話的な深い学び等を取り入れた魅力ある授業実践を図るため、担当者間の連携を深め、各学期に研究授業等を実施する。 ・Chromebook等を活用し、生徒の基礎的・基本的な学力が確実に定着するよう指導する。	B	魅力ある授業実践を目指して、研究授業(公開授業)はもちろんのこと、GiGAスクール構想に対応した研修を実施した。充足したICT機器を利活用し、商業教育における基礎的・基本的な知識と技術の習得を図るためにも、職員のスキルアップは必要不可欠である。生徒や保護者からの要望が強い資格取得に向けても継続して取り組む。

<p>ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付け、ビジネスの諸活動を主体的・合理的かつ協働的に行う能力を育てる。</p>	<p>求められる3つの資質（人間関係能力・社会性・倫理観）を伸長する。</p>	<p>・授業で学んだ専門的知識・技術を試す実践の場を設け、総合的な人間力、資質の向上を図る。 ・体験的な学習を通してビジネスマナーを身に付けさせるとともに、定着指導に努める。</p>	<p>・販売実習である「熊商デパート」への取組みを通して、ビジネスに対する姿勢やコミュニケーション能力の育成を図る。また、顧客満足の観点をもとに熊商デパートを演出する。 ・事前の指導や企業研修を通して、ビジネスマナーの必要性について理解させるなど、定着指導を行う。 ・情報モラルについても、情報処理の授業を中心に涵養を図る。</p>	<p>A 販売実習である熊商デパートは今年度で36回目を迎えた。昨年度に引き続き一般公開での開催であり、大盛況であった。ChromeBookも活用し、上級生から下級生へ接客マナー指導を行うなど、学年を超えた連携を図ることができた。事前事後の学習をとおり、体験的にビジネスに対する姿勢やマナーを深める良い機会となった。将来のビジネス社会を支える人材になるため、より実社会に即した取り組みへと進化することも求められる。</p>
<p>ビジネスの諸活動を主体的、合理的かつ倫理観を持って行い、地域や経済社会の発展に寄与する能力と実践的な態度を育てる。</p>	<p>ビジネス活動に対するグローバルな視点や企画力・表現力を育成する。</p>	<p>・「課題研究」や「商品開発」、「電子商取引」などの学習を通して広い視野を育て、企画力・表現力の向上を図り、ビジネス諸活動の主体的構成者としての資質や能力を育成する。 ・高大連携プログラムやベンチャーマーケットなどを活用した専門性の深化により、将来のスペシャリストの育成を図る。</p>	<p>B 「商品開発」「電子商取引」では、地域の文化財である「ジェーンズ邸」の再建イベントに参加し、広い視野に加え、企画力・表現力を培った。また、今年度も高大連携プログラムに参加し、実践的・体験的な授業をとおりて見聞を広げた。マーケティング部では地元企業との商品開発及び地域のイベントでの販売実習に取り組み、専門性を高めた。</p>	

※評価A～Cについては、A・・・達成できた、B・・・概ね達成できている、C・・・課題が残る、を基準に評価した。

4 学校関係者評価

【学校経営】

- ・とてもご苦労されていると思います。学校評価Aが多いことも嬉しく思います。高校の部活動の指導について義務的だとすればオーバーワークは心配です。
- ・業務改善において、ICTの活用とあるが、会議資料を事前に配布(電子データ)して、参加者が事前に内容を理解できると時短につながる可能性が高い。
- ・生徒一人一人を伸ばす教育活動の実践はすばらしいと思います。学習面と生活指導面の両方からのアプローチはとても大事だと思うので今後も続けていただきたい。
- ・生徒の姿や学校評価アンケートの回答から、適切かつ素晴らしい学校経営が行われていると思います。部活動担当者の働き方の問題は高校では非常に難しい面があると思いますが、少しでも負担が少なくなるような取組が必要であると感じました。
- ・校長先生を中心に先を見据えた経営がされている。
- ・各部が役割を明確にし運営されていると思います。

【学力向上】

- ・Wi-Fiのネット環境はストレスになりますので、熊本商業こそ環境を整えてあげて欲しいです。
- ・生活時間活用調査の実施を期待する。
- ・授業参観させていただき、授業が大変工夫されていると感じました。不参加の生徒さんもおらず、生徒さんの主体的な学びの場になっていると感じました。
- ・各科で様々な国家試験や資格検定試験に多数の合格者を出しておられることから、商業高校として充実した指導が行われていると思います。
- ・テストを軸にするのではなく、提出物や資格におもむきを置くのは大変実践的で良いと思います。
- ・進学率が高くなり上級資格取得率も伸びていて、今後も期待します。

【キャリア教育】

- ・評価がすべてAとなっているのは素晴らしいです。現代、自主性が問われる社会、自己で考えることができることもとてもいいです。
- ・大学教員等呼び、模擬授業を行っても良いのではと思う。大学等に関しては県内外を問わず、1日をかけて実施できると望ましい。
- ・生徒の一生を左右する指導に丁寧に関わっておられると感じました。世の中の変化に対応していける判断力、行動力を伸ばしてほしいと思います。
- ・6割が進学ということで、さらに専門性を高めたいと考えている生徒が多いことは素晴らしいと思います。適切な進路指導が行われていると思います。
- ・1年次から進路指導室へ足を運び易い雰囲気だと聞いている。とても良い。
- ・高校卒業時の年齢で進路決定する事はむずかしく、担当者の御苦労を感じます。

【生徒指導】

- ・自転車の負傷事案が20件ほどあるとのことで、他人事ではなく自己を守ることでヘルメット着用は熊本商業では徹底をお願いしたいところです。
- ・アンケートに関し、教職員だけでなく、生徒にもいじめ等を入れても良いかと思う。(このアンケートは学校評価アンケートを言う。)
- ・授業参観で生徒さんたちのあいさつを気持ちよくしてくれる姿にとっても嬉しくなりました。授業態度もとても素直な感じで、心の教育が行き届いていると感じます。
- ・問題行動への対応や生活指導を大切にしていながら、多様性への理解や生徒の反映など、生徒に寄り添った生徒指導も行っていただくとさらに良いのではないかと思います。
- ・既に行ってはいると思いますが、近隣他校との情報共有等も行い、学校外での生徒の指導もお願いします。
- ・生徒数からしては、指導を要する生徒の数が少ないようで、高評価です。

【人権教育の推進】

- ・人権においても深く理解されていることを望みます。多様性を認める社会になり、優しい熊本商業生であることを望みます。
- ・生徒主導で様々な人権啓発活動をされていることに敬意を表します。生徒一人一人の意識の向上が一番だと思うので是非継続していただきたい。
- ・学校評価表において特別支援教育の項目や記述がなく、残念に思いました。特別支援教育を推進していただき、小中からの継続的な支援や困り感を抱えた生徒の支援に取り組んでいただきますようお願いいたします。
- ・人権教育は大切な事なので、推進をお願いします。それにより、いじめ等の抑制にもつながると思います。

【いじめの防止等】

- ・やはりCが目立ってしまい残念ですが、いじめの問題は深刻にとらえるというより安易にからかいの認識だと思いますが、深く傷つけているという認識に気づいて欲しいです。
- ・学校評価アンケート以外で行っているのであれば、公表(生徒へ)しても良いかと思われる。
- ・生徒たちの自主的な行動も大切であるが、スピードと最悪を回避するリスクヘッジの考えも必要を感じます。
- ・いじめの問題はなかなか表面に表れてこないと思います。相談できる場を充実すると共に、相談しやすい環境作り、家庭の連携を今後も取り組んでいただきたい。
- ・アンケートや面談等で早期発見に努められ、組織的に取り組んでおられると思いました。心の教育の充実を進め、未然防止に努めていただけるとさらに良いのではないかと思います。
- ・いくつかの情報をたまに聞くが、先生方の対応がきちんとされていると感じる。
- ・事案が少ないようなので安心いたしました。

【地域連携】

- ・防災士となり深く学習したことで本当に大事な避難訓練だと思いますが、砂取小学校のおっしゃる通り一人一人が高校生であるので自身で考える高校生でありますように。
- ・大学との連携(活性化研究等)も考えて良いと思われる。
- ・集団での行動、訓練等、活動的で素晴らしい。
- ・様々な地域連携活動に取り組んでおられるのがよくわかりました。その中でもたくさんの学びがあるのだと感じました。
- ・学校運営協議会で話がありましたが、実効性のある避難訓練となるよう取り組んでいただくことが大事だと思いました。
- ・企業とのコミュニケーションは進んでいると感じるが、周囲の幼・小・中とも連携して欲しい。
- ・第2回学校運営協議会資料P7に記載してありますとおり、防災について次年度に向けた努力目標、成果を踏まえた防災教育を継続していただきたい。また、具体的目標にもあります「避難所協力」において、県、市、地域自治会との連携をさらに深めてもらいたい。
- ・地域の学校やコミュニティをよく活用できていると思います。

【商業教育の充実】

- ・熊商ならではのオンリーワンの教育そして将来を生きていく生き抜く力 人間力をつけてほしいと思います。
- ・大学教員の授業を導入して良いかと思われる。
- ・資格取得は要望に対して、何名の取得を目指しているのか。
- ・商業教育がとても幅広いということがわかりました。社会の変化に対応できる新しいやり方、切り拓いていく力が求められていることがわかりました。
- ・歴史ある熊商デパートの取組やマーケティング部の活動など、生徒の主体的な活動を通して専門性を高める教育活動が行われており大変素晴らしいと思います。商業高校の拠点としての役割を十分果たされていると思います。
- ・熊商デパートをはじめ、去年はランチパック等、マーケティング部の生徒を中心にととも充実していると感じる。
- ・実践をふまえた取り組みをなさっていることを評価いたします。

【その他】

- ・日々の先生方のご努力により 熊本商業生、後輩たちの頑張る姿が目に見え、ありがとうございます。
- ・目標が数値化されると評価の達成率となる。全てではないが、成果と課題が具体的、現実的になり前に進んでいる感を実感しやすくなる。
- ・学校評価アンケートの入学の満足度について生徒の95%、保護者の98%が「満足」「概ね満足」と回答していることは、日頃から素晴らしい教育実践が行われていることの証明だと思います。
- ・県立熊本商業高校は指定避難所でもあります。砂取校区は校区防災連絡会が設立されていますので、次年度におきましては、避難所運営委員会の設立に向けた取り組みにご協力いただけたらと思います。

5 総合評価

【学校経営】

学校の教育目標およびスクールミッション及びスクールポリシーに基づく各部の取組みについて、教育目標達成に向けて計画的・組織的に実践している。生徒、保護者のアンケートにおいても「よく実践されている」という回答をともに9割以上得た。今後さらに、ICT機器の活用を増やし業務の効率化を図ることで、生徒と向き合う時間を確保し、きめ細かな指導に繋げていくことが大切である。

【学力向上】

タブレットやFORMSを活用した家庭学習時間を確保する取り組み、黙学による主体的に学ぶための意欲を高める取り組み、学期に1回の研究授業・公開授業への取り組み、FORMS等を活用した生徒による授業評価とその後の担当職員の間・改善が、学力の充実・授業内容の充実を図る取り組みとして評価を得ている。本校におけるタブレットを活用した実践事例を教職員で共有し、生徒が主体的・協働的に取り組む授業を確立していくことが大切である。

【キャリア教育】

キャリア教育に対するしっかりとした理念と具体的なプログラム(高大・高専連携への取組等)による、生徒一人ひとりに対する丁寧な対応が成果に繋がっている。本校におけるキャリア教育をさらに充実・発展させるために、実社会と接続し、自己と関連付けられた課題が発見できる「総合的な探究の時間」を発展させることが必要である。

【生徒指導】

校門一礼や規範意識を高めるための様々な生徒指導への取り組み、不登校や問題行動の兆候を見逃さず初期段階で生徒指導部、学年部、教育相談部が連携して取り組む予防的指導が、熊商生としての自覚を持たせ、意識の高揚に繋がっている。特性を持つ多様な生徒が入学してきており、SCやSWなど関係機関と連携した、個に焦点を当てた問題解決的指導に対してさらに力を入れていかなければならない。

【地域連携】

熊商デパートにおける協賛事業所との連携、地域商店街の活性化への取り組みなど、地域とともにある学校づくりができていると評価を得ている。また、避難場所協力における熊本市と連携した取組みから、地域(砂取校区8町内)と連携した学校づくりを進めていく必要がある。

【商業教育の充実】

全商三種目1級取得や簿記・情報分野における高度資格取得の達成など専門的知識や技能の習得だけでなく、それを活用できる様々な実践的な場面の設定(熊商デパート・高大連携プログラム等)が工夫されている。GIGAスクール構想に対応するため、ICT機器の利活用に対する教職員のスキルアップが必要である。

6 次年度への課題・改善方策**【学校経営】**

○学校経営方針である生徒を「伸ばす」教育活動の実践を推進するために、生徒の学習面・生活面・進路面を現状分析することで課題を明確にし、取組の方向性を職員間で共通認識をさらに深める必要がある。
○業務の効率化を図ることは、先生方が生徒と向き合う時間を確保することに繋がる。衛生委員会を通じて超過勤務の先生方をリストアップし、保健指導に繋げるなど勤務時間の削減をできるように工夫したが、大会直前の勤務時間の改善に課題が残った。校務分掌を見直すなど負担軽減を図りながら、働き方改革につながる業務改善を実施する。

【学力向上】

○主体的・対話的で深い学びの視点から、ICT機器を活用したデータ駆動型の教育へと転換が迫られている。職員研修を通して一人ひとりがスキルアップし、授業内容の充実を図る必要がある。
○GIGAスクール構想に対応するICT機器は整備されたが、その活用に対する職員の格差は大きい。オンラインによる指導の充実を図るとともに、同時双方向型のオンライン指導にさらに対応していく必要がある。

【キャリア教育】

○生徒の主体的・自発的な学びにつながるように、総合的な探求の時間を導入している。熊商デパートと関連づけるとともにキャリア教育の視点を取り入れながら実施する。生徒一人ひとりが課題意識をもち、主体的な学びと将来の展望が具体的にできるよう工夫した取組を行う。
○本校において3年間系統的・計画的な進路指導が実践できている。特に発達段階に応じた集団進路指導や進路先別の丁寧な指導が効果的であった。生徒一人ひとりの進路実現を支援するために、職員の面談力を高めることでさらに充実させ、主体的な学びに繋げる。

【生徒指導】

外面的・内面的生徒指導の取組は、熊商生として自覚をもった行動に繋がっている。しかし、SNSの活用、情報モラル、交通モラルについて一部の生徒に課題がある。全職員による指導に加え、問題行動の早期把握に努め、学年、教育相談部、外部機関とのより一層の連携を図る。「命を大切にできる心」を育む指導プログラムへの取組を通して、安心・安全、健康・命を守る教育をより推進する。

【地域連携】

○STEAM教育の学習要素を取り入れた熊商デパート協賛事業所との連携など、地域とともにある学校づくりを継続して推進する。
○避難所運営について本校独自のマニュアルを活用し、熊本市と連携した取組みを実施している。地域代表者(砂取校区8町内)にも参加していただき、マニュアルの情報共有と役割分担を確認するなど連携強化をさらに図る。

【商業教育の充実】

○KSHの指定事業を受け、課題研究において、Webスタジオ等の活用、熊商デパートにおいて電子決済の導入について研究を進め、新しい販売実習方法について検討する。
○スキルアップを図る研修や研究授業への取組みは、一定の成果を上げている。今後は、GIGAスクール構想に対応する同時双方向型のオンライン指導ができるように推進する。また商業教育の拠点校として、本県商業教育が活性化できるよう引き続き役割を果たす。